

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度選定

岡山県岡山市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

岡山市 SDGs未来都市計画
～誰もが健康で学び合い生涯活躍するまちおかやまの推進～

特に注力する先導的取組

SDGs健康好循環プロジェクト

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

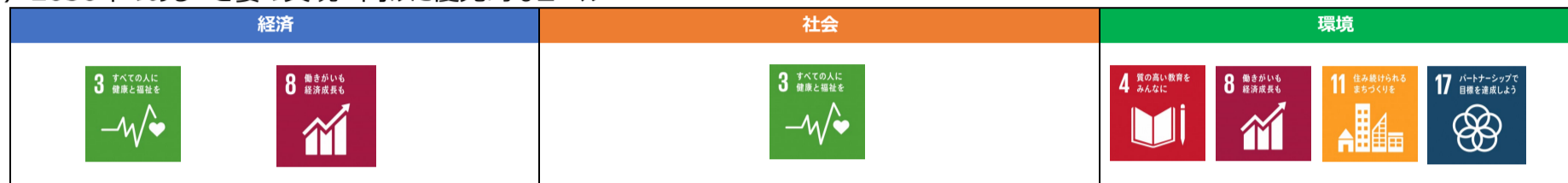
(1) 計画タイトル

岡山市 SDGs未来都市計画 ～誰もが健康で学び合い生涯活躍するまちおかやまの推進～

(2) 2030年のあるべき姿

〈地域の健康づくり〉…これまでのESDノウハウを活用して、健康教育の取組が進み、地域での学びや支え合いを通して、地域全体が健康になる。
 〈実行する健康増進〉…新たな健康づくりサービスの創出や、市民の健康データ等の活用など、効率的・効果的な具体的な健康づくり活動が活発になる。
 〈健康、そして活躍〉…健康な市民が生きがいを持って活躍できるよう、誰もが就労や社会参加できる環境が整備され、地域の活力が向上する。
 〈住みやすく 活力あるまち〉…医療や農業などの特長を活かし、地域産業が活性化される。また、過度な自動車依存から脱却した、人と環境にやさしい交通ネットワークが確立される。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	市内就業者数【8.3】	2013年 370,783 人	2018年 390,436 人	2020年 381,000 人	192%
2	医療費抑制効果【3.4,3.8,8.3】	2018年 0 円	2020年 94,643 円	2022年 122,400 千円	77%
3	生活習慣の改善に取り組んでいる人の数【3.4,3.8】	2018年1月 4,996 人	2020年 13,393 人	2020年 15,000 人	84%
4	児童の軽症救急搬送件数【3.4,3.8】	2016年 1,823 件	2020年 1,299 件	2020年 1,700 件	426%
5	就労・社会参加につなげた高齢者等の人数【8.8】	2018年 210 人	2020年 751 人	2020年 970 人	71%
6	公共交通や自転車利用を心がける市民の割合【11.2,11.a】	2015年 33 %	2019年 37 %	2019年 40 %	57%
7	ESDプロジェクト参加団体数【4.7,17.17】	2018年 282 団体	2020年 323 団体	2030年 350 団体	60%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

<p>(4)の進捗等について</p> <p>No.4：適正受診の啓発効果により児童の軽症救急搬送件数は減少した。新型コロナウイルス感染拡大の影響による搬送件数の減少もあり、2020年度の目標値を大きく上回った。</p> <p>No.5：就労につなげた高齢者等の人数は伸びたが、ボランティアにつなげた人数が伸び悩んだ。今後は、市社会福祉協議会のボランティアセンターとも連携しながら、より効率的な支援を行っていく。</p> <p>No.6：新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の要請等がありながらも、健康増進と環境への配慮から公共交通を利用する人の割合は増加した。今後、岡山市総合交通計画に基づく各種施策の推進により公共交通や自転車利用の利便性が向上し、利用する人の割合はさらに上昇する見込み。</p> <p>No.7：持続可能な社会づくりへの関心の高まりや、岡山ESDプロジェクトの活動の積極的なPR等により、プロジェクト参加団体数は着実に増えている。2030年の目標達成に向けて、今後も各種取組を推進していく。</p> <p>自治体SDGsの情報発信・普及啓発の進捗等について</p> <p>体験型の啓発イベントや学び合いのフォーラムを開催するとともに、HP「おかやまESDナビ」を活用して、行事の開催案内や登録団体の取組紹介などの情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「未来わくわくSDGsフェスタ ～お買い物からはじめよう！～」を8月20、21日に大型商業施設（イオンモール岡山）で開催。参加者は2日間でのべ850名。 ○「おかやまSDGsアワード2020表彰式&SDGsフォーラムin岡山」を12月に岡山コンベンションセンターで開催。参加者は225名（うちYouTube視聴者122名）。 ○「ESDカフェ×SDGsシリーズ」について、2020年3月から新型コロナウイルス感染拡大により中止していたが、10月からオンラインで再開した。月1回開催し、参加者は6回でのべ78名。 <p>ステークホルダーとの連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○岡山ESD推進協議会と連携して、各種イベント、フォーラムなどのSDGs達成につながるESD活動の推進や、SDGs普及啓発事業を実施。 ○岡山県内の13自治体で構成する岡山連携中枢都市圏の会議や研修において、岡山市の取組を発信。 <p>地方創生・地域活性化への貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○産学官民金言で構成する「おかやま地域発展協議体おかやまSDGs研究会」において、SDGsの優良事例を顕彰する「おかやまSDGsアワード2020」を実施し、「おかやまSDGsアワード2020表彰式&SDGsフォーラムin岡山」（再掲）にて表彰式を開催。アワードやフォーラムを通じて、地域の団体や企業等が優良事例から学ぶ機会を得たり、団体間の情報共有や連携が活発になるなど、SDGs達成に向けた各団体の活動の層の充実につながった。 ○SDGs健康好循環プロジェクトにおける、SIBを活用したヘルスケア推進事業において、生活習慣改善メニューを提供している企業の数が増え、企業活動の促進につながった。また、生活習慣の改善に取り組んでいる人の数が2年間で大幅に増えたことで、医療費の抑制効果が表れてきた。SIBを活用した生涯活躍就労支援事業により、高齢者のニーズに合った就労のマッチング支援を行うことができ、生涯現役社会の実現に向けての好循環を創出している。 ○新型コロナウイルス感染拡大により、市民の生活や経済活動に制限がかかるなど、地域に深刻な影響が出ている。先の見通しが立ちにくい中で、今後の課題として、感染予防対策やITの活用など、新たな社会生活にも対応した取組を検討していく必要がある。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	ヘルスケア産業創出・育成事業	市内就業者数	2013年 370,783 人	2015年 378,631 人	2017年 386,521 人	2018年 390,436 人	2020年 381,000 人	192%
2	農業の担い手確保・育成事業	新規就農者数	2015年 27 人	2018年 32 人	2019年 34 人	2020年 25 人	2020年 40 人	-15%
3	農村集落活性化事業	多面的機能支払制度活動参加者数	2017年 10,456 人	2018年 11,191 人	2019年 9,920 人	2020年 37,487 人	2020年 13,300 人	950%
4	生活習慣病対策	自らの健康リスクを把握している人の割合（国保特定健診受診率）	2016年 29 %	2018年 29 %	2019年 30 %	2020年 27 %	2020年 35 %	-24%
5	「健康市民おかやま21」推進事業	生活習慣の改善に取り組む人の数	2018年1月 4,996 人	2018年 3,357 人	2019年 11,627 人	2020年 13,393 人	2020年 15,000 人	84%
6	環境にやさしい交通ネットワークの構築	J R 市内全駅乗車数（1日当たり）	2015年 10.9 万人	2018年 11.6 万人	2019年 11.6 万人	2020年 8.5 万人	2020年 11.7 万人	-300%
7	ESD活動の推進	ESDコーディネーターの人数	2017年 169 人	2018年 188 人	2019年 209 人	2020年 229 人	2020年 200 人	194%
8	環境と共生した地域づくり推進事業	身近な生きものの里認定地区数	2015年 14 地区	2018年 16 地区	2019年 17 地区	2020年 21 地区	2020年 20 地区	117%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

No.4：2020年度は、自走化に向けた取組として医療機関での試験的な利用を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、プラットフォーム構築の遅延や、国保特定健診受診率の低下により医療機関での試験運用および対象者の確保が困難となった。そのため、2021年度に医療機関での試験運用を実施するためのプラットフォーム構築や対象者確保について検討を実施した。

No.5：SIBを活用したヘルスケア推進事業について、中間支援組織（受託者）、ヘルスケア関連の地元企業や地域金融機関等とコンソーシアムを構成している。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

No.2：新規就農者数については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け減少した。今後は、都市部での就農相談会参加や他県からの研修受入等、オンラインでの実施も視野に、より効果的な担い手確保・育成事業を展開する。

No.3：2020年度の目標値を大きく上回った要因として、呼びかけ強化の効果によるものとともに、2020年度から国の様式が変更されカウント方法が変わったことも影響している。

No.4：健診自己負担額を500円にし受診しやすい環境をつくり、電話やハガキによる勧奨により受診忘れ防止と受診定着を図ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による受診控えにより、前年度に比べ受診率が低下した。今後はナッジ理論を用いた勧奨ハガキを作成する等により受診率向上を目指す。

No.5：目標値には到達しなかったものの、当初値の2倍以上の参加者を集めることができた。【再掲】

No.6：2019年までは順調であったが、2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく減少した。引き続き、公共交通の利便性向上や利用促進を図る。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・健康推進事業の進展は評価できる。地域の健康づくりに関し、これまでのESD活動の堅実な経験が礎となって健康と教育を結びつけ、着実な進展を遂げており、また県内13自治体と連携した中枢都市圏としての活動の中心的な役割を果たしている点を高く評価する。

・ESDの各種活動と今回のSDGs未来都市計画に位置付けられている各種取組との連携はどのように図られているのかについて明示することを期待する。

・依然として環境・社会・経済的課題の統合的解決、自律的好循環の構想と計画が見えない。殊に、環境的課題の捉え方はSDGsの目指す環境ゴールから乖離しているように思われる。経済的価値の創出について検討が必要である。

2. 特に注力する先導的取組

(1) モデル事業又は取組名

SDGs健康好循環プロジェクト

(2) モデル事業又は取組の概要

市民が健康になり、健康になった先に生きがいをもって活躍できる場があり、その結果として、さらに健康になるという好循環で持続可能な社会を生み出すため、AIを活用し健康状態の早期把握や効果的な特定保健指導を実施する。また、民間企業や金融機関とコンソーシアムを構成し、SIBを活用した生活習慣改善メニューの提供を進め、市民の身近に健康がある環境整備を図り、そしてSIBを活用して市民が就労・社会参加できる場を増やしていく。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度 (%)
SIBを活用したヘルスケア推進事業	運動や食生活などの生活習慣改善メニューの利用にインセンティブを付与し、生活習慣病予防の取組や環境整備を進める。	生活習慣改善メニューを提供している企業の数	2017年 0 企業	2018年 24 企業	2019年 62 企業	2020年 68 企業	2020年 32 企業	213%
AIを活用した健康見える化事業	健診結果や趣味嗜好データからAIが算出した将来リスクを可視化し、アプリを用いて一人ひとりに適した生活習慣改善メニューを提供することで継続性のある健康増進活動を支援する。	自らの健康リスクを把握している人の割合	2016年 29 %	2018年 29 %	2019年 30 %	2020年 27 %	2020年 35 %	-24%
ICTを活用した遠隔健康医療相談事業	市内0歳児への小児遠隔医療相談の提供。	児童の軽症救急搬送件数	2016年 1,823 件	2018年 2,030 件	2019年 1,859 件	2020年 1,299 件	2020年 1,700 件	426%
SIBを活用した生涯活躍就労支援事業	就労に課題を抱えている高齢者等を就労等に結び付けることで生きがいづくりの場を創出するとともに、地場企業の担い手不足を解消する。	就労・社会参加につなげた高齢者等の人数	2018年 210 人	2018年 271 人	2019年 404 人	2020年 751 人	2020年 970 人	71%
健康教育推進プロジェクト	従来から行っている健康教育に加え、市民に対する薬剤耐性 (AMR) 等に係る普及啓発を行った。チラシの掲示やラジオ等を活用して効果的に啓発を行った。	健康教育受講者数 (感染症関連)	2016年 25,076 人	2018年 18,449 人	2019年 23,099 人	2020年 6,025 人	2020年 30,000 人	-387%

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・SIBを活用したヘルスケア推進事業：中間支援組織（受託者）、ヘルスケア関連の地元企業や地域金融機関等とコンソーシアムを構成している。
- ・AIを活用した健康見える化事業：新型コロナウイルス感染拡大の影響による受診控えもあり、前年度に比べ特定健診受診率が下がり事業参加者数が予定を下回ったため、健診受診勧奨を実施するとともにAI事業についてもアプリ利用方法等を見直し参加しやすい環境づくりを行う。
- ・ICTを活用した遠隔健康医療相談事業：適正受診の啓発効果により児童の軽症救急搬送件数は減少した。新型コロナウイルス感染拡大の影響による搬送件数の減少もあり、2020年度の目標値を大きく上回った。
- ・SIBを活用した生涯活躍就労支援事業：【詳細は後掲】(モデル事業(2)シート(6)へ)
- ・健康教育推進プロジェクト：薬剤耐性 (AMR) 感染症等が世界的な問題となっている中、国内では、まだ一般的に市民の認識・意識・関心は低い状況にある。今後、健康教育に限らず、様々な手段・手法を用いて、感染症対策や抗菌薬の適正使用など薬剤耐性 (AMR) に対する正しい知識・理解を進めるための普及啓発を行い、継続していく必要がある。

2. 特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

- ・AIを活用した健康見える化事業
- ・SIBを活用したヘルスケア推進事業
- ・SIBを活用した生涯活躍就労支援事業
- ・ICTの活用による遠隔健康医療相談事業
- ・健康教育推進プロジェクト

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

- ・AIを活用した健康見える化事業…特定健診結果をAIが解析し、アプリを用いて将来的な健康リスクや一人ひとりに適した生活習慣改善メニューを提示した保健指導を実施する。
- ・SIBを活用したヘルスケア推進事業…民間企業のヘルスケアサービスの提供と市民の利用により、好循環を生み、身近に健康がある環境整備を進める。
- ・SIBを活用した生涯活躍就労支援事業…課題を抱えている高齢者等を就労等に結び付け、地場企業の担い手不足を解消する。
- ・ICTの活用による遠隔健康医療相談事業…不安から救急を使用することが多い小児医療で、スマートフォン等で気軽に健康医療相談ができる環境を整備する。
- ・健康教育推進プロジェクト…健康見える化事業で明らかになる生活習慣や健康リスク、健康改善プログラムなどについて、生涯学習の場等を活用して市民とともに健康について考える場を設ける。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇔環境	経済⇔社会	社会⇔環境
SIBを活用した生涯活躍就労支援事業により、企業への高齢者等の雇用に関する意識改革や労働条件の見直しについては順調に進み、高齢者のニーズに合った就労のマッチング支援を行うことができた。	SIBを活用したヘルスケア推進事業（統合的取組）により、多様な健康づくりサービスが市民に提供され、市民の健康増進に寄与し、医療費も削減されるという相乗効果が創出されている。	健康増進や生きがいを求め、就労や社会参加を希望して生涯活躍就労支援事業に登録する高齢者は順調に増加した。 地域で健康教育を進めることで、環境面において、より問題意識を持つ人が増え、市民一人ひとりが健康を意識するようになり、結果的に医療費の削減が進んでいる。

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】【社会→環境】就労・社会参加に繋がった高齢者等の人数	2018年 210 人	2018年 271 人	2019年 404 人	2020年 751 人	2020年 970 人	71%
2	【環境→経済】柔軟な働き方の提供等により高齢者等を積極的に雇用する企業数	2018年 0 企業	2018年 0 企業	2019年 89 企業	2020年 224 企業	2020年 45 企業	498%
3	【経済→社会】【環境→社会】生活習慣の改善に取り組んでいる人の数	2018年1月 4,996 人	2019年3月 3,357 人	2019年 11,627 人	2020年 13,393 人	2020年 15,000 人	84%
4	【社会→経済】生活習慣改善メニューを提供している企業の数	2017年 0 企業	2018年 24 企業	2019年 62 企業	2020年 68 企業	2020年 32 企業	213%

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

- ・AIを活用した健康見える化事業：2020年度は、自走化に向けた取組として、医療機関での試験的な利用を検討していたが、新型コロナウイルスによる影響のため、プラットフォーム構築の遅延や、国保特定健診受診率の低下により医療機関での試験運用および対象者の確保が困難となった。そのため、2021年度で医療機関での試験運用を実施するためのプラットフォーム構築や対象者確保について検討を実施した。
- ・SIBを活用したヘルスケア推進事業：定期的に、ヘルスケア関連の地元企業や地域金融機関等と会議を開催し、事業の進捗確認や実施内容を協議しており、自律に向けて協力関係を築いている。
- ・SIBを活用した生涯活躍就労支援事業：民間支援機関2社と社会福祉協議会が専門アドバイザーの助言を受けながら、支援内容についての意見交換や好事例の学びあい、就労支援イベントの共催等を行うことで、高齢者就労のスキル向上を図った。
- ・ICTの活用による遠隔健康医療相談事業：実際に配布していただいている愛育委員さんへの事業説明や岡山市ホームページへの掲載により市民の方々への利用を促した。
- ・健康教育推進プロジェクト：従来から行っている健康教育に加え、市民に対する薬剤耐性（AMR）等に係る普及啓発を行った。チラシの掲示やラジオ等を活用して効果的に啓発を行った。健康見える化事業で明らかになる生活習慣や健康リスク、健康改善プログラム及び薬剤耐性（AMR）などについて、生涯学習の場等を活用して市民とともに健康について考える場を設ける。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

就労・社会参加に繋がった高齢者等の人数：利用登録者のうち、ボランティアに比べ就労のニーズが当初の見込みより高く、1人当たりの支援時間がより多い就労に時間を割いたため、就労につなげた高齢者等の人数は順調に伸びたが、ボランティアにつなげた人数が伸び悩んだ。今後は、ボランティア希望者については市社会福祉協議会のボランティアセンターとも連携しながら、より効率的な支援を行っていく。

柔軟な働き方の提供等により高齢者等を積極的に雇用する企業数：民間支援機関と社会福祉協議会が連携しながら、積極的に企業等への訪問を行うことにより、高齢者雇用に関する理解が進み、当初の目標値を大きく上回り、順調に推移している。

生活習慣の改善に取り組んでいる人の数：目標値には到達しなかったものの、当初値の2倍以上の参加者を集めることができた。

生活習慣改善メニューを提供している企業数：多くの企業にアプローチした結果、当初の目標値を大きく上回り、順調に推移している。

2. 特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

（7）有識者からの取組に対する評価

- ・健康推進事業の進展は評価できる。地域の健康づくりに関し、これまでのESD活動の堅実な経験が礎となって健康と教育を結びつけ、着実な進展を遂げており、また県内13自治体と連携した中枢都市圏としての活動の中心的な役割を果たしている点を高く評価する。
- ・ESDの各種活動と今回のSDGs未来都市計画に位置付けられている各種取組との連携はどのように図られているのかについて明示することを期待する。
- ・依然として環境・社会・経済的課題の統合的解決、自律的好循環の構想と計画が見えない。殊に、環境的課題の捉え方はSDGsの目指す環境ゴールから乖離しているように思われる。経済的価値の創出について検討が必要である。